

専攻	経営学専攻	氏名	笹谷 和花
留学先	中央大学校	留学期間	2025 年度春学期（半年間）
<p>半年間の韓国留学を振り返ると、当初立てた「韓国語能力の向上」と「多国籍の友人作り」という 2 つの目標を十分に達成できたと感じている。</p> <p>韓国語の学習においては、少人数制の授業という恵まれた環境のおかげで、先生との距離が近く、安心して学ぶことができた。特に、繰り返し丁寧な指導を受けた発音練習は、自分の大きな自信に繋がった。単なる語学力の向上だけでなく、学ぶことの楽しさを実感できたことは、私にとって大きな収穫である。</p> <p>寮や大学内でのイベント、そして日々の生活を通じた「人との交流」からは、座学以上の学びを得ることができた。国籍や言語レベルは違っても、「何かを学びたい」という共通の前向きな姿勢を持つ留学生同士で互いに刺激し合い、支え合える関係を築くことができた。</p> <p>こうした環境の中で、「より交流の輪を広げたい」という気持ちが芽生え、自ら積極的に話しかける姿勢が身についた。相手の背景や文化を尊重しながら関わる大切さを自然と意識できるようになったことは、私にとって最も大きな変化であり、今後の人生における大きな財産になると確信している。</p> <p>今回の留学は私の内面にポジティブな影響を与え、どのような環境でも前向きに行動できる力を授けてくれた。今後は、この経験を糧に、語学力を活かせる国際的な環境で働きたいと考えている。</p> <p>まずは、自身のスキルを客観的に把握するために TOPIK（韓国語能力試験）を受験し、新たな学習目標を明確にするつもりだ。留学で得たかけがえのない経験を無駄にすることなく、自身の進路や成長へと着実につなげていきたい。</p>			

専攻	スポーツ文化専攻	氏名	永洞 聖奈
留学先	培材大学校(韓国)	留学期間	2025 年度春学期（1 年間）
<p>留学前、私の心は韓国語能力への不安でいっぱいだった。いざ留学が始まっても、言葉の壁や生活環境の違いに自信を失い、家族と離れて暮らす寂しさに心細さを感じる日々が続いた。しかし、「このままではいけない」と一歩踏み出し、授業では予習を徹底し取り組んだ。特に刺激を受けたのは、他国の留学生たちの姿だった。彼らは自分が理解できるまで質問を投げかけていた。その熱意に背中を押され、私も積極的に先生へ質問しに行くようになった。さらに、サークル活動への参加を通じて韓国人の友人ができ、授業外でも韓国語を使う機会が増えたことは、現地文化への理解を深める大きな一歩となった。</p> <p>留学生活では数多くの失敗も経験したが、そのたびに工夫して乗り越えることで、成長を実感できた。「間違えてもいいから諦めずにやり遂げること」が、充実した留学生活の鍵であることを学んだ。この経験を通じ、自分の中に「挑戦する勇気」と「失敗を恐れない精神」という強みがあることに気づくことができた。</p> <p>今回の留学を経て、語学力だけでなく、新しいことに積極的に取り組む前向きな姿勢を養うことができた。現在は「韓国語を活かした仕事に就く」という新たな目標に向かっていく。今後は、TOPIK への挑戦や、現地で出会った友人たちとの再会を目指し、さらに学びを深めていきたい。</p>			

専攻	英語専攻	氏名	樋口 晶南
留学先	ボールステイト大学(アメリカ)	留学期間	2025 年度秋学期 (半年間)
<p>アメリカでの半年間の留学は、語学力の向上はもちろん、自分自身の内面的な成長を強く実感する貴重な時間となった。</p> <p>多国籍な学生が集まる少人数制のクラスは発言機会が多く、着実に力を伸ばせる環境であった。特にライティングとリスニングに手応えを感じたが、一方で授業や試験対策だけでなく、自律的な学習にもっと注力すべきであったという反省も残っている。</p> <p>実際の留学生活は楽しいことばかりではなく、人間関係や文化や食事の違いに悩むことも多かった。目標が不明確だと、日々の生活が「ただ無事に帰国すること」だけを指すものになりがちである。留学中に何をしたいか、この経験を帰国後どう活かすかという明確な軸を持つことが、困難を乗り越える原動力になると痛感した。これらの壁を乗り越えた経験は、今の私の大きな誇りとなっている。</p> <p>アメリカでは自分の意見をはっきり伝えることが求められる。嫌なことは「嫌だ」と意思表示するよう心がけた結果、帰国後の今も、自分の考えを伝えられるようになった。また、外の世界を経験したことで、日本の素晴らしさを客観的に再発見できたことも大きな収穫であった。</p> <p>今後はこの経験を糧に、英検や TOEIC などの資格取得に励み、将来は英語を活かした仕事に就きたいと考えている。身につけた語学力を維持・向上させるため、これからも日々の学習を継続していく。</p>			

専攻	英語専攻	氏名	櫻井 陸人
留学先	ボールステイト大学(アメリカ)	留学期間	2025 年度秋学期 (半年間)
<p>多民族・多文化国家であるアメリカでの生活を通じ、多角的な視点や広い視野を養うことができた。何事にも挑戦する前向きなマインドへと変化したこの半年間は、自身の将来のキャリアを再考する大きな転換点となった。</p> <p>留学生活では、授業以外の日々のあらゆる場面に学びがあった。中でも、現地の日本語クラスでチューターとして学生をサポートした経験は非常に貴重であった。英語を用いて日本語を教えるプロセスは、自身の語学学習において大きな刺激となっただけでなく、現地での友人を作るきっかけにもなった。また、アメリカの「Small Talk」という文化も私を成長させてくれた。待ち時間などに初対面の人とも会話を交わすこの習慣を通じ、多くの友人ができた。恥じらいを捨てて飛び込んでみる姿勢が、自分を大きく成長させると実感している。さらに、自分の本心で誠実に会話することは、トラブルを未然に防ぎ、円滑な人間関係を築く上でも重要であると学んだ。</p> <p>将来の進路については模索中だが、英語でコミュニケーションを図れる環境に身を置きたいと考えている。この経験を糧に、今後も語学力の維持・向上に励み、自信の可能性を広げていきたい。</p>			

専攻	英語専攻	氏名	中嶋 純怜
留学先	ボールステイト大学(アメリカ)	留学期間	2025年度秋学期(半年間)
<p>今回の留学の目的は、英語力の向上、そして将来英語教員になるために米国の教育や文化を直接学ぶことであった。</p> <p>現地でのオールイングリッシュによる授業を通じ、第二言語学習者への指導法を肌で感じられたことは大きな収穫であった。リスニングやスピーキングの能力が向上しただけでなく、ディスカッションやプレゼンテーションの経験を通じ、以前よりも自信を持って英語で意見を伝えられるようになった。英語で思考を言語化する難しさに直面しながらも、挑戦を続ける中で「完璧でなくとも伝えようとする姿勢」がいかに重要であるかを痛感した。</p> <p>また、授業外ではラグビー部のマネージャーを務め、現地の学生と交流できたことも、教室では得られない貴重な財産となった。</p> <p>帰国後は、英検の受験をはじめ、留学で培った英語運用能力を維持・向上させるため、日常的に英語に触れる学習を継続していく。将来、英語教育に携わることを視野に入れ、この異文化理解の経験を今後の大学での学びに最大限に生かしたい。</p> <p>これから留学を考えている皆さんには、不安や困難も伴うだろうが、その環境でしか得られない学びが必ずあると伝えたい。少しでも興味があるのなら、ぜひ勇気を持って一步を踏み出してほしい。</p>			